

道路橋の重要性学ぶ

コンクリート診断技術

東日本大震災と維持管理

診断士会と技術公社



毎年恒例のオープンセミナー＝アオッサ



情報共有の必要性を指摘する木村上席研究員

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）毎年恒例のコンクリート診断技術セミナーは9日、福井市手寄のアオッサで開催され、会員も含む約90人が参加し「東日本大震災とこれからの

維持管理」をテーマに講師の話を熱心に聴いた。冒頭、石川会長は震災後1年を振り返り、自然の脅威を目の当たりに「安全安心をもたらす公共事業はまだまだやるべきことが多く、コンクリートは人の命を守るためには不可欠な材料」と強調。その構造物の機能・性能を保持する維

持管理は益々重要などといさつした。今企画は福井県建設技術公社も共催。講師には橋梁構造物を中心に研究進める土木研究所の木村嘉富上席研究員を招いた。氏自身被災地を見て歩き想像を絶する光景に心を痛めつつも研究心を奮い立たせ道路橋の被害実態に目を凝らした。その結果、耐震補強された橋はやはり強固

で、その有効性が確認できたと報告。また日本の道路橋の維持管理・更新費の将来像から今後30年までに事業費約2倍増が想定され、必要な予算確保が不可欠と注文。さらに研究上も未解明な点も多いと率直に認め「思わぬ亀裂等が見つかったら

情報を共有し皆で調べることが大切」などと呼びかけた。最後に道路橋管理の役割を子どもの健康管理に例えて「道路管理者は親に等しく子の健康状態を常に点検し、専門家（診断士）は病院に等しく検査を行い、利用者も学校の先生や近所の人に等しく異常を見つけたら親に知らせてほしい」と締めくくった。

コンクリート構造物の診断スペシャリスト集団

福井県コンクリート診断士会

（一般社団法人日本コンクリート診断士会 加盟）

福井市上森田5丁目1105-1（福井宇部生コンクリート株式会社内）

TEL 0776-56-1234 FAX 0776-56-2217